

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要		事業開始年度		H17.3.22～			
総合計画	大項目	基本目標	01	安全で快適に暮らせるまちづくり	根拠法令・規程等	水質汚濁防止法	
	中項目	基本施策	02	自然と共生するまちづくり			
	小項目	施策	01	環境保全			
事務事業名		03	水質汚濁防止事業		問	担当課(室)	環境課
			問	職・氏名	保安係長・牛肩裕二		
			先	電 話	64-1822		

事業の実施		対 象 (誰・何に対して)	測定地点の水を利用する備前市民及び市内事業者
目 的 (何のために)		農作物への被害防止や生活環境の保全を図るため。	
行政活動 (どのような方法で)		主要河川・池・海域で環境水の水質測定を行う。	
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)		水質を保全し環境基準を達成する。市内各地の水質の状況を把握する。	

事業の実績						
活 動	実 施 項 目		単 位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	環境水調査箇所		箇所	34	33	27
	事業費		千円	89,997	84,269	2,723
	必要人員		人	5.23人	4.63人	0.55人
	事業費		千円	122,138	113,539	6,922
	受 益 者 負 担 金		千円	69230	83899	
	受 益 者 負 担 金		千円	374	106	
	受 益 者 負 担 金		千円		0	
	受 益 者 負 担 金		千円	52,534	29,534	6,922
	受 益 者 負 担 比 率		%	0.3%	0.1%	

結果指標①		単 位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
環境水調査箇所		箇所	34	33	27
対 前 年 比		%	-	97.1%	81.8%
活 動 コ ス ト		円	2,448,096	2,264,976	1,434,930
単 位 当 たり コ ス ト		円	72,003	68,636	53,146

事業の成果					
成 果 指 標 名	年 度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
環境基準超過回数	目標値 (A)	30	30	24	24
	実績値 (B)	51	47	20	到達目標年度
	達成率 (B/A)	58.8%	63.8%	120.0%	平成21年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
環境水の水質測定で環境基準を超過した回数と目標値に対する比率 ※H20年度より「水質汚濁防止事業」を、水質汚濁防止事業と休止鉱山鉱害防止事業に分けているので、平成18年～平成19年の事業実績より金額が大幅に下がっている。					

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		妥当性の評価		市民ニーズ		効率性の評価		有効性の評価	
市の関与の妥当性	市が実施するよう法令で義務づけられている	<input checked="" type="checkbox"/>	法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす	市民・団体等から要望・要請が強い	説明		市民・団体等から要望・要請が強い		
	現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない	<input type="checkbox"/>	事業の内容が一部の受益者に偏っている		単位当たりコストは前年度と比較して改善している		実施方法(派遣・委託)を見直すことでコストを下げる余地がある		
市民ニーズ	対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている	<input type="checkbox"/>	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい		受益者負担率は適正である		成果指標の設定は適切である	
	現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である	<input checked="" type="checkbox"/>	事業開始当初の目的から変化してきている	受益者負担率を見直す余地がある		サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	
効率性の評価	事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている	<input type="checkbox"/>	厳しい財政状況であるが、実施する必要がある	現在的手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている		成果指標の達成率は前年度と比較して向上している	
	類似した事業がある	<input type="checkbox"/>		現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている		成果指標達成率は80%未満となっている	
有効性の評価	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/>	測定地点の集約・見直しを図っており、今年度は大幅な集約を行ってコストを下げた。	事業について積極的にHPや広報等で情報提供している		事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある		現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	
	市民参画度	<input type="checkbox"/>		事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している		事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている		現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	

平成21年度の状況		目標値	結果指標量①	26	結果指標量②	成果指標量	18	
状 況	拡充		現状継続	○	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	見直し							
説 明		佐山川の塩素測定について、測定回数の見直しと場所の集約を実施した。						

総合評価		評価区分 <A~E>	B
<p>大幅な測定箇所の削減と集約を行い、真に把握が必要とされる箇所をのみ測定体制にしたので、大きくコストが下がった。合わせて全市的に環境水の値が良くなった傾向が見受けられる。</p>			

平成22年度以降の方向性・内容		方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
改 善 が あ る 場 合	説 明	削減と集約が終了したため、現状維持のまま事業を実施する。状況に応じて測定地点・項目を増減する。							
	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果					